

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 宮川 耕二 (主幹兼国道係長 大江 泰廣)	内線	4362 (4374)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	約68 億円
		道路改築事業 一般国道482号 鶴岡道路	城崎郡日高町上郷 ^{かみのごう} ~ 城崎郡日高町水上 ^{みのかみ}	内地補償費	約16 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
城崎郡日高町上郷 ^{かみのごう} ~ 城崎郡日高町水上 ^{みのかみ}			平成17年度	平成17年度	平成24年度
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> 但馬地域の東西の幹線道路網を強化し、地域間交流を促進して観光や産業の発展に寄与する。 日高町中心部において、幅員狭小で老朽化が著しい鶴岡橋、人家密集地及びJR山陰本線の踏切を通過している国道482号のバイパスを整備することにより、市街地内の交通の安全を確保し、安心して利用できる生活道路としての機能の向上を図る。 			道路改築（バイパス整備）L=1,390m （高架橋L=429m、鶴岡橋L=359m） 【計画幅員】 （高架部）W=6.5(22.0)m（2車線+片側歩道+副道） （鶴岡橋）W=6.5(12.0)m（2車線+片側歩道） 【計画交通量】 8,300台/日（高架部）4,200台/日（鶴岡橋） 【現況幅員】 W=5.0(5.5)m（鶴岡橋、1車線+歩道なし） 【現況交通量（H11交通センサ）】 5,069台/日 【負担割合】 国5.5/10、県4.5/10		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の 確保	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡橋は昭和11年に架設された老朽橋で、平成2年災害には橋脚洗掘の被災を受けており、又、人家密集地が歩道未整備で人身事故等が多いことから、バイパスルートで架け替えることにより、安全で円滑な交通が確保できる。 2次救急担当医療機関である公立日高病院や日高町健康福祉センターなど、医療福祉施設へのアクセス性が向上する。 				
くらしと交流 を支える	<ul style="list-style-type: none"> 県内有数の観光地である城下町出石と神鍋高原や八子北高原、さらには湯村温泉を連絡するなど、但馬地域における東西の幹線道路として、物流や地域間交流を促進し、観光や産業の発展を支える。 				
県土の活用を 進める	<ul style="list-style-type: none"> 円山川右岸地域から、北近畿豊岡自動車道や国道312号日高バイパスに短絡することにより、南北幹線道路へのアクセス性が向上し、広域的な地域間の連携・交流が促進できる。 				
地域二一ズ	<ul style="list-style-type: none"> 日高町新総合計画等で、但馬地域の東西の連携強化を課題として取り上げ、鶴岡橋の架け替えを含めた国道482号の整備を強く求めている。 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 B/C = 1.6 				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> 現道幅員は、沿道に人家が連担しているため多大な費用を要する。このため、都市計画道路である鶴岡八丁線を利用した本バイパスが、東西の円滑な交通を確保できる最適なルートである。 				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度早期の都市計画変更の実施、用地取得における日高町の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の通過交通がバイパスに転換することにより、現道の交通渋滞が緩和され、市街地の生活環境の改善が図られる。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が著しい鶴岡橋が再度、被災する恐れがあり、早期に架け替える必要がある。 着工に向けて準備が進んでいる北近畿豊岡自動車道へのアクセス道路としての機能を発揮させるため、早期に着手する必要がある。 				